

# このほんしる

ねんばん  
3・4年版 No.207  
なんでもただ会社

ほん  
おみせの本

ニコラ・ド・イルシング / 作 <sup>みはら</sup>三原 <sup>しの</sup>紫野 / 絵  
<sup>すえまつ</sup>末松 <sup>ひみこ</sup>氷海子 / 訳 (日本標準)

ティエリーは、たいくつを  
まぎらわせるため、でたらめ  
な番号に電話をかけてみた。  
すると、『なんでもただ会社』  
という、おかしな名前<sup>なまえ</sup>の会社  
につながった。会員<sup>かいいん</sup>になれば、  
なんでもただでとどけてくれ  
るという。ただし、おわりに  
『ン』がつくものは注文<sup>ちゅうもん</sup>してはいけないらしい。  
気<sup>き</sup>をつけながら、さっそく注文すると…。



きょうばし  
京橋 (3543) 9025  
ちゅうおうくりつ  
中央区立 日本橋 (3669) 6207 としょかん  
つきしま  
月島 (3532) 4391 図書館

●ホームページアドレス  
<http://www.library.city.chuo.tokyo.jp/>

刊行物登録番号 24-005

# おしゃべりなカーテン

あわ なおこ こうもと さちこ  
安房 直子／作 河本 祥子／絵（講談社）

はる子のおばあさんは、カーテン屋さんを始めました。まず、お店のまどに白いカーテンを作りました。

はじめてのお客さんの注文は、海の中にあるようなカーテンでした。おばあさんがこまっていると、「海のカーテンならレースです」と白いカーテンが教えてくれました。

さっそくおばあさんは、レースのぬのを、たくさんとりだしました。



# くつなおしの店

アリスン・アトリー／作 こみね ゆら／絵  
まつの まさこ  
松野 正子／訳（福音館書店）

くつなおしの店のニコラスじいさんと孫のジャックは、とてもまずしい暮らしをしていました。

ある日、ニコラスじいさんはジャックにたのまれて、足のぐあいの悪い女の子ポーリー・アンのために、やわらかくて軽いくつを作りました。そのバラのように赤いくつのかわが、ほんの少し残ったので、小さな小さなくつを作ってみると…。



# クリーニングやさんのふしぎなカレンダー

伊藤 充子 / 作 関口 シュン / 絵 (偕成社)

並み木通りのはじっこに、おじさんが一人で働いている小さなクリーニング店がありました。

ある年の始めのこと、おじさんは店の前で、よごれたぬのを見つけました。あらってみると、それはふしぎな色のカレンダーでした。それから店には、ひつじやくまなど、次々にかわったお客さんが、やって来るようになりました。



# パン屋のくまちゃん

森山 京 / 作 広瀬 弦 / 絵 (あかね書房)

町のはずれに、小さなパン屋がありました。

ある朝、店のおじさんとおばさんは、ガラス戸から中をのぞいているくまの子に気づいて、びっくり。お金を持っていないくまの子に、クロワッサンをひとつあげると、父親のくまが、かわりにはちみつをとどけてくれました。

くまの子はたびたび店に来て、店の仕事も手伝うようになります。



# まよなか、くすり屋では…

かきうち いそこ みはら しの  
垣内 磯子／作 三原 紫野／絵（フレーベル館）

こうたの家の近くに、古びた薬屋がありました。おいてある薬は、ほこりをかぶっていて、店番をしているのはやせたおばあさん一人きりでした。

実はこのおばあさん、本物のまじよだったのです。でもそれは人間にはひみつでした。

ある日、何も知らないこうたは、せきどめドロップを買いに行きました。すると…。



# やすしのすしや

あらい けいこ おおば けんや  
新井 けいこ／作 大庭 賢哉／絵（文研出版）

ぼくは回転ずしが大好き。ゆめは回転ずし屋になること。でも、おじいちゃんは、しょく人さんがにぎってくれるすし屋のほうが好きだ。

ある日、おじいちゃんが、けがで入院してしまった。そこでぼくは、おじいちゃんの大好物なふとまきの作り方を、おすし屋さんで教えてもらうことにした。



# オバケの長七郎

ななもり さちこ／作 きむら なおよ／絵（福音館書店）

ぼく、オバケの長七郎。まだ飛ぶことや消えることは  
苦手だけど、光ったり、光ったり、冷たくなったりできるんだ。

ねむったまま、お寺のわきのゴミすて場に落ちていた  
ぼくをつまみあげたのは、古道具屋『へなもんや』のお  
やじ、源ジイ。

ぼくは店で鳥かごに入れられ、『鳥かご五百円。オバケ  
三十円』と札をつけられて売りに出されたんだけど…。





み か づ き ま ほ う ふ し ぎ み せ  
三日月の魔法をあなたに -ルマの不思議なお店-

むらやま さ き さくま めい  
村山 早紀 / 作 サクマ メイ / 絵 (ポプラ社)

あすか じっさい きゅう ば み  
飛鳥は十才になってから、急にお化けが見えるようになっ  
て、毎日こわい思いをしている。

せいかつ まち でんせつ しん  
こんな生活をなんとかしたい飛鳥は、街の伝説を信じて、『ルマの不思議なお店』をさがし、助けを求め  
る。

ところがるまに、「お化けがいるのを知っているのに、見えなくなってもいいの?」と聞かれ、飛鳥は、まよっ  
てしまう。

